

紙一重・・・とストライクゾーン

『馬鹿と天才は紙一重』・・・

よく考えると不思議な言葉です。

“紙一重”、つまりはほんの少しの違い。

でも、その“ほんの少し”で人は『すごい！』と言われたり、
『ちょっと変わってるね』と言われたりします。

例えば、誰も思いつかないアイデアを出した人・・・。

ある人は「天才！」と褒めるかもしれませんが、別の人は
「何それ・・・？」と首をかしげるかもしれません。

独特な趣味を持っている人に、「面白い！」と感じる人も
いれば、「変わってるな」と感じる人もいる。

そう考えると、評価は“見る人のストライクゾーン”次第
ではないでしょうか。

立ち止まって考えてみると、「馬鹿」という言葉は、自分
の基準からはみ出したものに貼られるラベルのようなもの
・・・という考えも出てきます。

でも、その“はみ出し”こそが、その人らしさだとしたら・・・。

「みんな違っていい」、同じであることを求めるのでは
なく、違いがあることを認め合う。

「自分とは違う」という理由だけで否定してしまうのは、
少しもったいない気がしませんか？

もしかすると、「天才」と呼ばれる人は、少し前の時代では『変わった人』と言われていたのかもしれませんが。ただ、『変わっている』と言われる人の中にも、誰かにとってはピタッとくる”ストライクゾーン”があるはず…だからここで、「紙一重」という言葉を思い出してみてください。

その紙一重の向こう側にいる人を、ちょっと変わった人だな…で終わるのか、それとも「そういう見方もあるんだ」と少し近づいてみるのか。

違いを受け入れる余裕と、違いを大切にするやさしさ。その両方を持てたら、きっと人との関係は、もう少し豊かになるのではないのでしょうか…。

PN:ねーさん